新殿

庭園の北西端近くにある新殿では、十畳ほどの広さの部屋から庭園を一望することができます。米などの栽培が行われている井田に面しており、庭園の茶畑を見渡すことができます。

19世紀前半に建てられ、当初は新御殿と呼ばれていましたが、その後新殿と呼ばれるようになりました。どちらも「新しい宮殿」という意味です。庭園の外周に位置しているため、障子を開けると、中にいる人は建物の端にある庭と、他方の庭園の外の景色を鑑賞することができます。もともとは田園風景が広がっていましたが、第二次世界大戦後の都市の発展に伴い、周囲の竹林を高くして、庭の外の高層ビルが見えないようにしてあります。

この建物と庭園内の他の施設は月替りで公開されており、事前に予約すれば借りることができます。